

ワーキンググループの検討状況報告

1 開催状況

平成17年1月20日(木) 第1回ワーキンググループ
平成17年2月4日(金) 第1回作業分科会
平成17年3月7日(月) 第2回作業分科会
平成17年4月11日(月) 第3回作業分科会
平成17年4月15日(金) 第4回作業分科会
平成17年4月19日(火) 第2回ワーキンググループ
平成17年5月18日(水) 第5回作業分科会
平成17年6月2日(木) 第3回ワーキンググループ(最終)
(平成17年4月27日(水)～6月1日(水) メーリングリストでの議論)

2 検討状況

研究会第3回(平成17年4月25日開催)におけるWGからの報告に対する検討状況を踏まえて、報告書(案)第4章及び第5章の審議を行った。

- 固定電話の番号ポータビリティに関する関係事業者間での検討状況については、議論中であるが2007年の初頭には二重番号解消方式を導入すべく検討しているところであり、移行期間について報告書に明示したほうがよいとの指示があった。
これについては、「OAB～J番号の確保のためには、番号ポータビリティの二重番号の使用について2～3年後を目途に解消することが必要である。」と幅を持たせた形で記述した。
- 固定電話番号の番号ポータビリティの二重番号を使わない方式を導入するまでの当面の措置として、使われていない県内の他の番号を使用する方式を取る方がよいとの方法について、「直近では3年後にひっ迫するため、3年後に他の番号を使用できなかった場合は、これから先の固定電話の番号ポータビリティに支障を来すため、3年後に使用できるように適切な期日を設定して行う必要があり、表現に注意し、WGにおいて報告書第4章を執筆して欲しい。」との指示があった。
これについては、実現に大規模なシステム改修が必要なく、事前に準備を行っていれば対応可能であることから、報告書(案)の第4章に「関係する電気通信事業者においては、3年後にも想定されるひっ迫時に速やかに対策が取れるよう前もって検討・準備を進めることが必要である。」と記述した。
- 1XY番号等の新規サービス受付への使用については、新たな1XYを使用することは消費者の混乱を招く可能性があるため慎重な検討が必要であり、また、有識者の意見を聞く必要がある等の意見があり、「短い番号の使用に優位性があるのか、また、あるとした場合でも利用者への影響などについて十分に検討を行う必要がある。これらの課題について、今後、検討していくことが適当である。」と記述した。